
闇に生まれし者

翠月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇に生まれし者

【Nコード】

N4236Z

【作者名】

翠月

【あらすじ】

「もうすぐ世界中から私がかかる!!」

書類にまみれた部屋に男が二人。

怪しげな雰囲気が漂うその空間で生まれたものとは？

ダーク調のSS。

(前書き)

ダーク調のSSです。

ホラーなどではありませんので、お気軽にご覧ください。

「もうすぐ世界中から私がかかる!!」

床にはたくさんさんの文字が綴られた書類が散乱し、地面が見えてい
るのはほんの一部の空間だけだった。

部屋のうちこちには必要だろうと取り揃えられた機械があまり使
われることもなく、埃を被って座っている。

もとは広い部屋だったはずのだが、なぜか今はこんな状況にな
っていて、広々とした部屋はその半分ほどにしか見えなかった。

そんな中で男が高らかに、実に嬉しそうにそう告げた。

「そうですね」

束になった、黒の文字でびっしりと埋められた書類に目を通すも
う一人の男。それなりに付き合ひの長い彼は、いつものことのように
軽く流した。

眼鏡を通したその奥の瞳は、羅列した文字を次々と追っていく。

「なあ。君もそう思わないか？ こんなに素晴らしいことはないだ
ろう!」

大きく両手を上げ、まるで落ちてくる何かを受け止めるように、
男は空気を包み込んだ。

「世界中から私が……私の元となるものがくるのだ」

「そうですね。あと何日でしたっけ？」

「三日と四時間だ!」

読み終わった書類や資料を床へと放り投げていく男は、いまだ興
奮が冷めない彼に視線を向ける。

白衣を身にまとった男は、この部屋の持ち主であり

「ああ! もう待ちきれないっ……!!」

うろつろと同じ場所を行き来し、落ち着きのない男。

やや痩せ型であるが、身長は高く外見もいい。ちいさな唇がふる
え、消え入りそうな声が漏れた。

「早く来ないか……。ああ、今頃どこにいるのか……」

はあ、とため息をついた白衣姿の男は、

「そんなに待ちきれないなら寝ていればいいじゃないですか。きつとすぐですよ」

と、また書類を床に投げた。

「寝るのが無理なら……雑談でも。あ、もしよろしければ散らばっている書類でも読みますか？」

かちやりと、ずれた眼鏡を直しながら先ほどと同じ状態の男を見る。

ずっとこの調子で話されては集中できない。

男はちらりと視線を投げると、

「あんな書類はもういい。雑談にでも付き合ってくれるか？」

忌々しげにそう告げた。

雑談でも、と言ったのはこの男だ。もし断りでもすればそう言うてやろうかと考えていたが、いいですよ、と男はあっさりと答えた。

4

「うーん、雑談といっても何を話せばいいのやら……私にはまだ調べなければならぬことがあるんですがねえ」

テーブルの上までも敷き詰められた紙類をどかし、椅子を持ってきて二人は座った。

白衣を着た男は頬杖をつく。

「何でもいい。とにかく、早く時間が来れば私はいいのだ」

「そんなこといわれても……時間を早めるのは無理です」

「いいから、さっさと話せ」

いささか横暴ではないかと男は大きく息を吐き出し、すこし考えてから口を開いた。

「では、あなたが世界中からここへ来る経路でも」

「私が、か？ というか、私がではない。私の元となるものだ」

「はいはい。で、その話でもします？」

「……ま、いいだろう。その話にも興味がある」

「あれ？ あなたにお話したことはありませんでしたか？」

「ない」

「じゃあ話しましょうか。えーっと、まず世界中の……」

そう切り出した時、男の携帯が時間を告げた。

軽い電子音が響き、男は細い指を伸ばしてそれを止める。

「すみません。時間のようです。私はこれから用がありますので……

…このままでいられても迷惑ですね」

目の前に鎮座する男にそう声をかけ、携帯を持った手とは逆の方を出した。

先ほどの電子音よりも軽い音が一瞬鳴り、今までうずうずしていた男はピタリと動きを止めた。

「そのままにしておくのもなんですから。きつと、私が戻ってきたころに届きますよ。あなたとなる、部品が」

ゆっくりと語りかけるようにそう口にしてから、ひらりと白衣をなびかせて踵を返し、男は部屋から出て扉を閉めた。

男がいなくなり、しんと静まり返った部屋の中。騒がしくしていた男がいるのは、ダンボール箱のようなものの中。

まだ頭部しかなく、けれどその容姿は誰かにとても酷似していた。一瞬見ただけでもわかるそのやや痩せ型で、けれど嫌な感じではなく、ちいさな唇と外見はいい。

それは、先ほど出て行った白衣の男と同じ。

箱のすぐ横には、簡潔に書かれた紙が置かれている。

「世界初！ まるで瓜二つのクローン！！」

そして、そのすぐ下には宣伝文句と注意事項が書かれていた。

「あなたと同じ肌質、質感！ まるで双子のようにそっくりな仕上がり！ すべてをそろえる為に世界中から集めます。もしも途中で上手くいかなかった場合、こちらでの保障や賠償は一切ありませんのでご注意ください」

白衣を身にまとい、不敵に微笑む男はこの部屋の持ち主であり

世界トップクラスの才能と変態という称号を持つ、研究者だった。

(後書き)

ダークっぽくなっていたでしょうか？
もしよろしければ、感想やレビュー、誤字脱字などお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4236z/>

闇に生まれし者

2011年12月14日19時52分発行